

事業所名

児童発達支援事業所 りんくす

支援プログラム

作成日

R7

年

3

月

1

日

法人（事業所）理念		地域全体に児童福祉サービスが平等に行き渡る世の中を作り、利用者ファーストを常に掲げあらゆる福祉サービスを通じ社会に常に必要とされる企業であり続ける。										
支援方針		5領域を網羅した視点から専門的セラピストを通じアセスメントを実施、科学的な根拠に基づき一人一人に合った支援を行い小集団、個別、集団とあらゆる環境に慣れていけるように活動の計画を実施します。										
営業時間		9	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援します。健康状態の常なるチェックと必要な対応を行います。身支度やトイレトレーニングなど、積極的に行います。基本的な生活スキルの習得（身の回りの整理整頓や食事）を個々の発達に合わせて支援していきます。生活環境を整え、障がいの特性に配慮しながら時間や空間を本人に分かりやすく構造化します。										
	運動・感覚	姿勢と運動・動作の基本的技能の向上を図ります。上肢・下肢の運動・動作の改善、筋力の維持・強化を図ります。保有する視覚・聴覚・触覚を十分に活用できるように、遊びを通して支援します。感覚の過敏を踏まえ、偏りに対する環境調整の支援を行います。										
	認知・行動	視覚・聴覚・触覚などの感覚を十分に活用し、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援を行います。環境から情報を取得し、そこから必要なメッセージを選択して行動に繋げるといった一連の認知過程の発達を支援します。認知の概念の形成（形、色、音、数量）の発達を促します。感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生じる行動障害の予防、及び適切行動への対応の支援を行います。										
	言語 コミュニケーション	具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつける等、体系的な言語の習得や自発的な発声を促す支援を行います。相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援を行います。平易な表現等による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるように支援します。										
	人間関係 社会性	人との関係を意識して身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行います。周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、支援員が介入して連合的な遊びを通して社会性を育てます。集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援します。										
家族支援		子どもの成長・発達の基盤となる親子関係や家庭生活を安定・充実させる観点から困りごとに対する相談・援助などをしていきます。				移行支援		地域社会への参加を推進する観点から、移行の視点を取り入れ、子どもや家族の意志等を踏まえつつ、保育所や幼稚園との併用に向けた支援をします。				
地域支援・地域連携		子どもの家族を中心に、包括的な支援を提供する観点から、その子ども・家族の生活や育ちの支援に関わる福祉への働きかけをしていきます。				職員の質の向上		職員それぞれの得意性を活かし、チーム療育を行います。個人目標達成のため、自己分析と他者評価から不足している分野を学習していきます。				
主な行事等		4月…入所・進級のお祝い 5月…こどもの日行事、交通ルール 6月…雨の日の遊び方 7月…プール活動、外食支援、七夕行事 8月…お楽しみ会 9月…お月見会クッキング 10月…遠足、ハロウィン 11月…読書、音楽おたのしみ 12月…クリスマス会 1月…雪活動 2月…節分 3月…卒業のお祝い										